

# 会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	2023 年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回インテリア系教育課程編成委員会
開 催 日 時	2023 年 7 月 25 日 (火) 15 時 40 分～17 時 00 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール/9F 904 教室
参 加 者	<p>&lt;外部委員:3名&gt; (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>小山 誠之 (株式会社パワープレイス プレイスデザインセンター教育・公共デザイン部 部長)</p> <p>島田 祐輔 (apgm デザインアトリエ/法政大学大学院デザイン工学研究所 兼任講師)</p> <p>鈴木 俊恵 (STeam/一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会 東京圏支部)</p> <p>&lt;内部委員:2名&gt;</p> <p>高山 寿一郎(専門学校 東京テクニカルカレッジ インテリア科科长 議長)</p> <p>村田 涼 ( 同 インテリア科 書記)</p>
	<p>&lt;第二部 系別分科会&gt;15:40～17:00 9 階 904 教室</p> <p>1. 議長挨拶(高山)</p> <p>2. 前回(系別分科会)議事録の確認(村田)</p> <p>3. 就職状況についての報告</p> <p>4. 校外学習の実施状況の報告</p> <p>5. 資格試験に関する報告</p> <p>6. 募集に関して・退学者・高専連携授業</p> <p>7. 次回予定・閉会の挨拶</p>
討 議 内 容	<p>3.)就職状況についての報告(配布資料を合わせて)</p> <p>【高山】</p> <p>昨年度 2022 年度生の 26 名中 26 名全員が卒業したが、内定を獲得するも条件が合わないということで就職決定まで至らなかった学生が 1 名。</p> <p>それとインテリア科で勉強をする内にグラフィックの分野に興味を持ち、そのスキルを更に伸ばしたいということで、他の専門学校に進学した学生が 1 名。</p> <p>なので、26 名卒業し 24 名が就職。1 名が進学、1 名は就職活動継続中。という状況になります。</p> <p>また、就職先企業も住宅系への就職が多くなっています。</p> <p>・現時点の二年生の内定状況に関して</p> <p>昨年度同時期が 76%で今年度は 75%、昨年並みの内定を獲得している。</p> <p>今年度も引き続き住宅系のハウスメーカー、リフォーム関係が多く、設計やデザインなどの方面で就職している学生が多い。また、21 名の内定者の中で決定をしている学生は 19 名</p> <p>今年度新しく建材メーカーのウッドワンから内定をもらった学生もいてインテリア関係の会社であり嬉しい点。</p> <p>未内定の 7 名に関しては 4 名が留学生で 3 名が日本人、</p> <p>校の目標として 8 月末に内定 80%を目指しているが、科としてはあと 2 名で 80%を超える状況。</p> <p>4.)校外学習の実施状況</p> <p>【高山】</p> <p>コロナの状況も大分良くなり、昨年度後半、今年度とほとんどの企業で受け入れていただき、授業を実施することが出来ている、まだハイブリッドでの実施なども一部あるが、かなり好転している状況。そのため今まで行ってきた企業だけでなく、どこか増やしたいと考えている。</p> <p>5.)資格試験に関する報告</p> <p>【高山】</p> <p>まず昨年度のインテリアコーディネーターですが、5 名(19.2%)が一次試験を合格し、そのうちの 3 名(11.5%)が二次試験も合格しインテリアコーディネーターとなった。</p> <p>今年度より、IC の一次試験がパソコンセンターなどを用いた CBT 形式へ変更となり、受験時期に一か月間の幅が生じるので、学校の履修判定試験後の 10 月 14 日・15 日での受験が出来る為、合格に繋がればと考えている。</p> <p>次に福祉住環境コーディネーターは、昨年度は 4 名(15.3%)と低い数字となってしまいました。</p> <p>今年度は現在受験中でまだ 5 名受験をしていますが、受験済みの学生でカウントすると 4/23 名で 17.3%の合格率となります。</p> <p>今年度は模擬試験の方法なども変えつつ行っているが、過去問第で合格点をクリアしている学生が多くても本試験で落ちてしまうことが多く、試験方式の変更に伴って過去問での対策・対応が難しくなっている可能性がある。</p>

最後が一年生の色彩検定の合格率ですが、昨年度 78.5%に対して今年度は 3 級(8 名)及び 2 級(2 名)を受験し、留学生も含め全員合格することが出来た。

#### 6.) 募集に関して・退学者・高専連携など

##### 【高山】

学校全体的に募集がうまくいっておらず、昨年に引き続き今年度も苦戦をしている状況。また、今年度インテリア科には 12 名の入学者がいたが、残念ながら 2 名の退学者が出ている。1 名は体調の関係で家から出られなくなってしまい、学校を続けることが出来なくなり退学、もう一名は留学生(コロナで入国が出来ず二年間休学をしていた学生)でホームシックとなり帰国をしてしまい退学。

募集に関しては意見を頂戴しながら授業をブラッシュアップしているが、人が集まってくれなければ展開・伝えていくことが出来ず、どうすれば良いか悩んでいる状況。少しでも目に触れてもらえるよう SNS(インスタグラム)の運用を昨年開始している、少しずつフォロワー数は増えているがまだまだ少なく困っている。

また文科省の事業で高専連携授業を実施しており、高校へ訪問し授業を行っています。高校生に専門分野について知ってもらう、興味を持ってもらうという活動となっています。

議題としましてはどうすればインテリア科をもっといろいろな人に見てもらい、知ってもらうことができるのか。

そして、カリキュラムチャートを改めて見ていただき、授業の並びなどデコ入れや工夫をするポイントなどが無い意見がいただきたい。というところになります。

##### 【鈴木委員】

就職先や需要的な部分で見ると、コーディネーター間での意見交換の中ではやはりリフォームの分野が伸びている、新築などの従来のコーディネーターの仕事だけでは難しくなっている。リフォームの分野については建築系の知識や資格(建築士など)がやはりあった方が良く、かつインテリアの事が分かるというのはアピールポイントとなる。

建築系の知識だけではリフォームは難しく、建築の知識があり建物をいじれて、かつそのいじり方もインテリアの視点から行えるということが満足度に繋がる。

カリキュラム全体は大きく変える必要はないと思うが、それぞれにリフォームという視点を増やしてあげるのが良いのかもしれないと思いました。

##### 【高山】

確かに RJP に関してはリフォームの仕事をしていて、リフォームの業界が伸びているので、就職先としても挙げているが、忙しさや大変さに関してもう少し話しをしなければと感じている。私が紹介したリフォームの会社に就職するも離職してしまう卒業生も出ているので、対お客さんへのコミュニケーションなどの面での対応力や柔軟性が求められるなど、うまくいかないことがあるようです。

##### 【鈴木委員】

リフォームという形のパターンが決まっていない業務では、本当に幅広い事を知っていて、語るポイントを何か持っていないと辛い。

##### 【島田委員】

パターンがない仕事は経験値がないとなかなかできることじゃなく、実際に業務でやったことや、その都度その都度、全然違うトラブルが起こる、その中で経験を積んでこそ提案が出来るようになっていくと思うので、一年目、二年目にそれを任せるのは、企業側にも思うところがある。

同行しサポートメンバーとして学んでいくべき段階のはずだが、人手がいなく、どんどん経験をさせていくような体制になってしまっているかもしれないが、そこで自信を無くしてしまうのは勿体ない。そういった環境のプレッシャーで辞めてしまうのも仕方がないが、そこで自分のスキル、能力が足りないと思わないようにしてほしい。

学校の二年間でそこにどうサポートが出来るかという難しい、実務レベルのパターンをやるなども現実的ではない。

##### 【高山】

企業としてはすごく良く見て新人研修を実施しサポートが充実しているところもあるが、離職してしまう環境は人手が足りない状態になってしまっている。

【鈴木委員】

新入社員を引き込んで任せてしまうほど人手が足りない環境ということはリフォームの業界の需要がやはり高く、これからの社会としても今後リフォームの需要は新築よりも伸びてくる。インテリア科のカリキュラムではインテリアだけでなく建築・建物の授業もたくさんあるので、それを活かして、かつ需要を考えるとリフォームは意識するほうが良いが、授業の中にどう取り入れるか考えないといけない。

【小山委員】

高校生にリフォームがこれから伸びると伝えても恐らくピンとこないなので、あくまでもインテリアやデザインというところ押したほうがよさそう。大学全入時代でどういう人をターゲットにしていくか、どう話を持っていくかも大事。

【高山】

確かにリフォームで学校探しはおそらくされず、インテリア・デザインなどの言葉が先に来る。

【小山委員】

あくまでも学校の中で学びつつリフォームというカテゴリーがあるということで、知っていくのは入学した後でいいと思う、募集の段階ではあまり効果がないので、新築やリフォームなど全体的なインテリアという面をアピールした方がいい。

【島田委員】

学生の話しでは、自分の家をリフォームした、自分で壁紙を選んだ、などという経験がインテリアに興味を持つことのきっかけになっている方もいる。

【鈴木委員】

リフォームといわれてもピンとこないかもしれないが、自分の家でこうしたい、カッコいいインテリアにしたいなどの意識があればそれはリフォームだね、とわかりやすく伝えられる。

【島田委員】

高校生くらいの年齢だと、祖父母の家などでリフォームを行っていることが多いかもしれない、そういった部分などで身近に感じて興味を持ってもらうこともある。

【小山委員】

インテリアに興味を持つというのは、やっぱり空間をどうコーディネートしたらイメージがどのように変わるのかなど、実際に体験できるとすごく興味を引く。  
3Dのソフトなどで簡単に壁材を変えたり、床を変えたり、家具を入れたりというアプリのようなものがあると触れてもらいやすい。  
ユニティなどゲームエンジンで設定をすることも出来るし、フリーの素材が世の中には出回っている。自分の会社でも実際にプレゼンなどで3Dを使ってやったりすることがある。  
(訪問先の環境によっては難しいというコメントに対して)小中高はギガスクール構想などでインフラは整備されつつある。体験できるようなそういったものの方がインテリアの楽しさが分かりやすい。

【鈴木委員】

大学全入時代と言われているが、とにかく大学という志向ではなくなっている感覚はある。

【小山委員】

行けるならとりあえず大学という選択肢があるのは確か、ただ大学に建築はあってもインテリアはない、探せば建築学部の中でもできないわけではないが、メインではない。  
高校生があと少し勉強して社会に出ようと思った時、専門学校はしんどく感じてしまう面があるのではないかと、よく聞く前評判で専門学校は授業が厳しい課題が多いなど、職業教育としてのイメージがある。

【鈴木委員】

やりたいことが具体的に決められない高校生はもう少しふらふらしていたいと考えてしまうのでしょうか。

【高山】

見学に来てくれる人たちはインテリアに興味がある人で、大学四年間のうちにやりたいことを決めようと考えている人たちには専門学校はなかなか来てくれない。興味を持ってもらうためにも高専の授業やSNSなどで露出を増やしていきたい。

【鈴木委員】

SNS は定期的にアップすることや、インスタグラムは投稿とストーリーを同時にあげるのも効果的で、人目に付きやすい。

【島田委員】

学祭などがあれば高校生も来場しやすく、作品などを見てもらえるし、かつ在校生との交流もできる機会なので学校の雰囲気も見られるしやはりオープンキャンパスと違う見え方の出来る学祭はあったほうがいい。

【島田委員】

昨年で議題にもあがった話で、全体像を伝えつつ授業を進めているがもっと具体的にペーパーで渡し、フローチャートなどタイミングをあらかじめ伝えてもいいかなと。

【鈴木委員】

確かに仕事をしていくうえでもそういうものがあって、全体を見て今ここだから、もう少し頑張っておこうなどという感覚をつかめる。

【島田委員】

プレゼンボードの提出日に間に合わない方も多いので予めの提出日なども用意したい。

【高山】

フローチャートの話から、期ごとのシラバスは每期渡しているが、2年間のカリキュラムチャートも1年生で配ってそれきりになってしまっているの、期ごとか2年生になったときや、目に届く場所において、全体像をイメージさせたいと思いました。

7. 次回予定・閉会の挨拶

次回教育課程編成委員会は12月1日を予定、  
また作品の展示会を実施予定ですので、皆様にご連絡させていただきます。